

# ロータリー財団委員会

委員長 泉 谷 正 紀  
副委員長 村 上 義 憲  
委 員 野 口 一 臣

## ■ロータリー財団の使命

ロータリー財団は1905年のロータリークラブ創設から12年後の1917年に基金として発足、以後世界中のクラブから募った寄付金を基にして運営しています。ロータリアンが、健康状態の改善、教育への支援、貧困の救済を通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることを目的とした活動の資金源として貢献しています。

## ■寄付金の還元システム

2013年から（ロータリー財団未来の夢計画）の実施により、年次寄付の還元額が大きく変わり、年次寄付は、その3年後に50%が地区に還元され、地区の教育的人道的プログラムや地元地域での奉仕プロジェクトに使用できます（地区補助金）。

また海外で現地のクラブ等と協力しての事業に対する支援（グローバル補助金）も受けられます。

## ■当クラブの寄付金の実績

2019年7月～2020年6月 : 総額4800ドル 84.21ドル/一人

2020年7月～2021年6月 : 総額4100ドル 80.39ドル/一人

2021年7月～2022年6月 : 総額4300ドル 84.31ドル/一人

（但し2021～2022年度はクラブよりウクライナ支援金として寄付金500ドルを含む）

## ■当クラブの近年の実績

- ・2013～14年 モンゴルでの失業者対策として2年間の職業訓練によりフェルト職人50人を育成。モンゴル フレーRC、韓国ドソルRCとのグローバル補助金共同事業。
- ・2016～18年 ミャンマー郊外の国立病院に医療器具を贈呈。また当クラブ50周年記念事業としてクラブ資金で小学校校舎を建設。また国際奉仕ファンドを活用して同校図書館を建設。
- ・2016～17年 郷東川河川敷の運動公園に2年続けて芝張りを実施。（地区補助金）

## ■活動計画

- 1、今回で4年目となるNPO法人まんまるサポートの活動支援（青少年奉仕委員会より要請）。家庭環境に恵まれず貧困、虐待、育児放棄等で家庭に居場所のない子供たちに「子ども食堂の活動支援」として食事や地域交流の機会を提供。最近では家庭での生活環境や学習環境が整わず不登校になり、学習の遅れが生じる子らが増える状況を鑑みて、今年度からは放課後の小中学生主体に「学習支援と食を主体とした居場所づくり」として、講師として協力頂く大学生と連携して放課後の学習支援を行い、通学意欲の向上、受験・進学を目指すという事業に発展、挑戦するという計画を尊重、支援してまいります。
- 2、財団補助金を使ったプロジェクトや活動への参加を呼びかけ促進します。
- 3、ロータリー財団の年次寄付金の目標を会員一人100ドル以上お願いします。